

環境バイオテクノロジー学会2018年度大会・年会シンポジウム

－共催： 化学工学会 バイオ部会 環境生物分野専門分科会－のご案内

平成30年6月25日（月）、26日（火）に 筑波大学(大学会館)にて、2018年度大会およびシンポジウムを開催いたしますので、お知らせいたします。詳細につきましては、学会ホームページ（<http://www.jseb.jp/>）をご覧ください。

発表申し込み締め切りは**5月21日（月）**を、参加登録締め切りは**6月11日（月）**を予定しております。

なお、参加のみの方も忘れずに参加登録をお願いいたします。

発表申し込み・参加申し込みに際しましては、懇親会参加の有無を忘れずにお知らせください。また、非会員、学生の方の参加の場合は、その旨を明記していただくようお願いいたします。

皆様のご参加、ご発表を心より待ちしております。

2018年度大会実行委員長

野村暢彦（筑波大学 生命環境系）

日 時：平成30年6月25日（月）～ 26日（火）

会 場：筑波大学 大学会館

茨城県つくば市天王台1丁目1－1

（http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html）

参加費：正会員5,000円、学生会員1,000円

非会員10,000円（学生非会員は2,000円）

懇親会費：一般 5,000 円

学生 3,000 円

スケジュール (予定)

1 日目【25日 (月)】

13:00～17:50 一般講演会, ポスター発表, 特別協賛セミナー など

18:10～20:00 懇親会

2 日目【26日 (火)】

9:00～12:15 年会シンポジウム「環境バイオテクノロジーに資する新たな技術」など

13:30～15:50 一般講演会, 受賞講演 など

16:00～17:00 総会

特別協賛セミナー

カールツァイス マイクロスコピー株式会社

「3D 電顕 と Correlation Microscopy の現在」

シンポジウムの講演者(敬称略)と内容

共催：化学工学会 バイオ部会 環境生物分野専門分科会

浦山俊一 (筑波大学) 「病気を起こさず宿主と共存するウイルス」

Andrew Utada(筑波大学) 「Microenvironment modeling and cell tracking using
microfluidics to study biofilm formation」

黒田章夫 (広島大学) 「スマートバイオセンシング」

鈴木市郎 (横浜国立大学) 「複合微生物系の利用と理解」

福田淳二 (横浜国立大学) 「細胞培養技術の新展開」

堀 克敏 (名古屋大学) 「接着性バクテリオナノファイバーによる微生物プロセスの革新」

参加登録：

参加希望の方は (1) 大会への参加 (2) 懇親会へ参加の有無 (3) 氏名 (4) 所属 (5) 連絡先 (6) 会員区分 (正会員・学生会員・非会員・学生非会員) を明記し、E-mail にて下記連絡先に**6月11日 (月)** までにお申し込み下さい。参加費は当日受付にて申し受けます。当日の参加も可能ですが、なるべく事前登録をお願いします。参加のみの方は忘れずに参加登録をお願いいたします。

発表（一般講演会・ポスター）募集（本学会会員）：

発表を希望される方は、参加登録と共に下記要領にて**5月21日（月）**までに講演要旨を作成してE-mail（MS-WORDの添付ファイルまたはテキスト）にて大会事務局までお送り下さい。

一般講演の希望の有無、ポスター発表の希望の有無、希望がありましたら、優先順も合わせてお知らせ下さい。発表は本学会会員に限りますので、まだ入会されていない方は入会手続きをお願いいたします。

講演要旨作成要領：

（１） 10.5ポイントの文字を使い幅15cm、高さ10cmの枠内に収める。図表は不可。

（２） 書式：演題／改行／発表者（演者に下線）、所属（省略形で記し括弧内に入れる）／改行／本文（目的・方法・結果・考察・引用文献等を任意の形式で記述）

下記の要旨（例）を参考にしてください。また、体裁は実行委員会に変更する可能性があることをご了解ください。

~~~~~

## 要旨（例）

Holin-endolysin システムを介したメンブレンベシクル産生

安田まり奈、黒沢正治、森永花菜、尾花望、豊福雅典、野村暢彦  
(筑波大学・生命環境)

【目的】微生物はメンブレンベシクル(MV)と呼ばれる数 nm の膜構造体を細胞外に放出する。MV は核酸やタンパク質、細胞間シグナル分子を含有し、それらを運搬することから、実環境中において微生物間相互作用に重要な役割を担うと予想される。しかし、MV 形成機構については未解明な部分が多く、微生物種間において共通の MV 形成機構は知られていない。近年、我々は *Pseudomonas aeruginosa* において集団中の一部の細胞が破裂すること (explosive cell lysis, ECL) によって MV が形成されることを見出した。ECL を介した MV 形成にはバクテリオファージによる溶菌機構である holin-endolysin システムが必要である。当該溶菌機構は細菌間で保存性が高いことから、holin-endolysin システムによる MV 形成の普遍性を解析することにした。

【結果】Holin および Endolysin を様々な細菌に導入し、誘導型プロモーターを用いて、その発現を誘導したところ、いずれの細菌においても MV 産生の増加がみられた。本結果より、holin-endolysin システムによる MV 形成は微生物間で共通した MV 産生機構である可能性が示唆された。

~~~~~

発表形式：

一般講演：発表時間 10 ～ 15 分間を予定。パワーポイントの使用をお願いします。

ポスター作成要領：縦 120 c m、横 85 c m の枠内で、左上角を 10 c m 四方あける。
最上部に題目、発表者、所属を明示する。レイアウトは自由。

参加・発表申込み／問い合わせ連絡先：

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1－1－1 筑波大学 TARA センターC棟内 環境バ
イオテクノロジー学会2018年度大会事務局

(担当・豊福雅典 Tel: 029-853-5079 email; jseb_2018meeting@jseb.jp)